

大阪薬科大学広報委員会



## 創刊の辞

学長 堀田 輝 明

人間本来の特質である言語活動と生産活動が、現代社会にあっては極度に集約化されて、マス・コミュニケーションとマス・プロダクションという形で展開していることは衆知の事実であるが、この二つのマスの活動はいよいよ巨大化するにつれて人間疎外の状況を生み出し、社会機構の巨人化の影で人間性喪失の嘆きが叫ばれ続けている。今日の大学一般もそうした傾向から逃がれきれず、大学あって人間なく、制度あって愛なきが如き状態が総合大学に多く見られる。

しかし、わが大学はそのような一般の大学とは逆に、戦前派の小規模な単科大学の形態を守り続けることによって、ミニ大学として専門家養成に徹して来ている。近時、定員増により幾分、学生数は増加したが、総数1200名程のミニプロ大学であるゆえ、コミュニケーション活動もさきやかなクテコミ形式で済まして来た。だが時には、大学当局よりの情報の伝達に正確を欠き、不徹底ゆえの誤解を生じることもあったので、学友会からの申し出も参考に、ここにミニコミ誌を発刊して、わが大学にふさわしいコミュニケーション活動を行い、学生諸君と大学との掛け合いを深めるとともに、学生諸君の便宜に供したいと思う。

丁度、多年の懸案であった学長選考規程も整い、選挙の結果、偶々、学長事務取扱であった私があるまゝ学長に選出されましたが、私は古い伝統に新しい息吹を注いで、わが大学を睿智と情熱に溢れた生き生きした大学に育て上げるべく、教職員及び学生諸君と一体となって努力して行くつもりです。そのためにも、すぐれた素質をもつ学生諸君の才能を鈍磨・停滞させることなく、充分開花させるよう努めたいし、学生諸君の奮起も期待したい。

とりわけ本年度は、施設面では本館両翼の遊休部分を会議室・実験室などに再活用し、学生諸君から強い要望が出ている学生会館（学生会館）用の建物の確保・補充をはかりたいので、学生部をお願いして、学友会との話し合いに入ってほしいと思っている。その他、学生の厚生面にも力を入れて、充実した学生生活を送って貰うための企画を考えている。

教育制度面ではカリキュラム委員会を編成して、カリキュラムの再検討を行い、薬学研究と薬剤師養成の両立をはかるとともに、学生の多様な要求、社会の薬学卒業者への多彩な期待に対応するよう、私見ではコース制のような形をとりたいと思っている。

薬学教育が薬剤師のあり方を含めてたえず論議的となり、薬学教育年限延長問題も一部に強く叫ばれている。薬学を学び薬剤師としての道を歩むのは極めてヒューマンな生き方である。しかし、医療に関する仕事は、直接・間接を問わず人命にかかわる重大な責任を負う仕事である。ヒューマンな生き方を誇るには、それにふさわしい知識の形成と人格の陶冶が必要である。学ぶべきことも極めて多いし、自ら努力して習得して行かねばならぬ品性上の事柄も多い。薬学を自ら選び学んでおられるのは、医療を通じて人のために役立ちたいと思われたからに違いない。人のために役立つには、なにがよいことであり、なにがまずいことかの識見を持たねばならない。その識見は薬学の知識そのものから出て来るのではないことを心すべきである。初心を貫き、苦しんでいる人、困っている人を助けるためには、本気になって考え、学び、研究してほしい。一緒になってよい雰囲気の大学にして行こうではありませんか。

# 勉学を始めるに当って

教務部長 森 逸 男



新入生諸君、御入学心より御祝い申し上げます。

先日迄のきびしい受験勉強より解放されて希望に充ち溢れ、一方未知世界への不安感、探究心が交錯しているものと推察致します。

本学は非常に歴史も古く、設備も充実した薬科大学であり、

理科系大学の特徴である実験は新学期早々より、薬用植物学、無機薬化学などで始まりますが、実験を通して教官と学生諸君との交流も深まり、和やかな雰囲気、実験並びに講義が展開します。

これら実習14単位（特別実習4単位を含まず）、体育実技2単位には出席制が採用されておりますが、講義

（必修科目38単位、選択科目74単位）には出席制はなく、各自の自覚にまかせられております。

一般教育科目（人文科学、社会科学、自然科学）のうち、人文科学、社会科学系科目（24単位選択）は三回生までの自由選択制で、それぞれ魅力ある講義がなされております。

長い受験戦争の解放感から、糸の切れたタコのような言動に走ることなく、毎日着実に勉学に精進しなければなりません。与えられた学問ではなく、自から進んで学問を探究する姿勢が重要かと考えます。

比較的、一・二回生においてはゆとりあるカリキュラムが組みこまれておりますので、自学自習に、更には学友会クラブ活動、あるいはサークル活動その他に励み、大学人としての巾広い教養を身につける必要があります。

これら講義、実習、ならびに学友会クラブ活動などを通して、二回生以降の選択必修科目、選択科目、特別実習、特別講義などの選定について十分熟慮の上、自らの進路を決定されるよう望みます。

なお、疑問の諸点はアドバイザーの諸先生方、ならびに教務部などを大いに御活用下さい。

## 新入生における

# 大学生としての自覚を！

学生部長 田 中 千 秋



新入生の諸君、ご入学おめでとう。小学校以来の長い学校生活の締めくくりの段階を迎え、社会に羽ばたくための深い教養と専門分野の高い見識をはぐくむ場として大阪薬大を選ばれたことを歓迎し、この4ヵ年がつつがなく、かつ実りあるものとなることを心から願うものです。

諸君は青春時代の真っただ中にあります。人生には色々な蹉跌や挫折がつきものです。しかし一つの挫折を身の不運とあきらめるか、あるいは与えられた試練と受けとめるのかが問題です。その与えられた条件の下で自己を燃焼させてこそ、初めて道が開かれ、灰色の人生もバラ色になるのです。このような可能性を秘めているのが

青春時代の特質です。学生時代は自己の可能性を徹底的に追求できる時代です。学生の本分は勉学です。その本分を忘れることなく、余裕の時間をクラブ活動など学生時代にしかできないことに精を出していただきたい。本学には全学的自治組織の学友会の下に文化局19部、体育局16部と若干のサークルがあります。全学生のおよそ8割がいずれかのクラブに所属しています。趣味の多様化の時代とは云え、諸君の好みに合うクラブが一つはあると思います。またクラブ活動を通じてできた友人は生涯の友となるでしょう。

世界は正に低経済成長長期にあり、慢性的不況が長期に亘ると云われています。諸君の大学生活にも色々な影響を及ぼすことでしょう。諸君の将来の栄光もたゞ座するのみでは与えられません。学問と人間性の向上のためには不断の研鑽が要求されます。薬学は人間の生命に直接係わる重要な学問です。大学生として、さらに薬学生としての自覚をもって先人の残した教訓や歴史や思想を謙虚に学び、広く世界情勢にも目を向け、しっかりした価値観と深い洞察力を養い、社会の要望に答える専門的知識を身につけることが望まれます。新入生諸君の限らない発展を期待します。

# 昭和55年度卒業生就職状況

就職部長 松 永 春 洋



今年も男子123、女子175、計298名の卒業生を送り出した。然しながら厳しい社会情勢の影響で就職率は昨年よりも落ち込み、結果は別表に示した通りである。すなわち男子の求人件数は昨年度を遥かに上廻りながら、学生の希望する職種と必ずしもかみ合わなかったし、女子

の場合は可成りの求人低下を来したたのである。

未定者の内訳は公務員又は国公立乃至大規模病院薬局志望が殆どで、目的を果す迄待つと云う者が目立つ。例年卒業時に多少残る未定者も薬剤師資格取得後には適当に落着くので楽観しがちであるが、今後は就職先開拓のための訪問外交を一層押し進める一方、求人・求職の面でも卒業生との連携を密にし、全国各地の同窓会支部への働きかけ等大学自体が積極的に取り組み改善せねばならない問題点が多い。又日常の学生指導を通じて薬業界の現況と将来に今少し目を向けさせ、三回生位から意識を持たせる工夫も必要である。

修士課程修了生並びに研究活動経験者に対する求人はPRの甲斐があり年々徐々に増加の傾向にある反面、卒業間際になって二重採用による大学斡旋の就職辞退者が増し、今年は数件現れた。四回生に進級直後の父兄を対象に就職説明会を催す大学が多いが、本学においても実践の方向で対策を検討しては如何であろうか。

昭和55年度卒業生進路（3月20日調べ）

進路	男(名)	女(名)	計(名)	%
会社(営業)	44	5	49	16.4
会社(開発・生産・研究)	19	47	66	22.4
病院(薬局・臨床検査)	10	62	72	24.2
薬局	10	13	23	7.7
病院研修生	7	12	19	6.4
公務員	3	2	5	1.7
大学職員	0	7	7	2.3
進学(大学院)	16	1	17	5.7
大学研究生	1	1	2	0.7
未定	12	23	35	11.7
就職不要	1	2	3	1.0
計	123	175	298	100.0

以上の諸点につき教員各位の絶大な御支援・御協力と御意見を寄せられる様お願いする次第である。

## 新入生ガイダンス

### ▶教務課より……

新入生の皆様ご入学心よりお祝い申し上げます。教務課は学科目履修届、受験届、薬剤師国家試験関係等の諸手続きの窓口である他、修学上の疑問点等の相談窓口でもあり、学生の皆様とは特に密接な関係の課であります。課員一同歓迎しますのでお気軽にご相談下さい。尚、留意事項として大学よりの掲示は、その当日から周知されるものとして取扱いますから常に掲示には注意して下さい。

掲示場所 教務課前・本館西二階・正門横

### ▶学生課より……

#### 1. 奨学生について

本学の奨学生は56年3月1日現在において大学院生を含め全学生1,225名に対し、137名でその比率は11%となっています。内訳は日本育英会111名、大阪府18名、岡山県3名、東大阪市、長崎県、茨城県、土佐の育英会が各1名、その他となっております。募集は4月下旬頃一斉に行いますが採用者が少いので学生課の掲示によく注意して下さい。

#### 2. 大阪学生相談所について

学生課は本学近辺のアルバイト、下宿および貸間の斡旋を行っております。文部省の外郭団体である学徒援護会の大阪学生相談所は府下全域に亘って次の斡旋を行っておりますので利用して下さい。

##### (1) アルバイトの斡旋

学生課にある所定の登録依頼書、登録書(写真添付)に所要事項を記入、学生課へ提出、大学発行番号の記入をうけて相談所へ登録します。登録は卒業まで有効です。夏、冬、春などの長期休暇のアルバイト探しに便利です。

##### (2) 下宿、貸間の斡旋

府下および兵庫県、奈良県の一部での下宿、貸間探しに利用できます。紹介は無料、入居決定時1,000円の手数料がいらいます。

大阪学生相談所の所在地 大阪市北区西扇町17

扇町公園(大阪プール)西隣。地下鉄=扇町、環状線=天満より5分

T E L (06)361-3791・5127 (住宅係)



# 昭和56年度予算の概要について

事務局長 小 村 俊 夫

去る3月28日の理事会及び評議員会において、昭和56年度の予算が決定しましたので、消費収支計算書の総括表に基づいて、その主要と思われるものについて説明します。

昭和46年文部省令第18号をもって学校法人会計基準が制定され、学校財政の各年次における状況を把握する資料として前述の計算書が規定されております。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び年間の収支の均衡の状態を明らかにするためのもので、消費収入は、当該会計年度の帰属収入(学校法人の負債とならない収入をいう。)を計算し、当該帰属収入の額から当該会計年度において、基本金に組み入れる額(学校法人がその教育研究諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。例えば、学校設立当初に取得した固定資産である校地、校舎、教育研究用機器備品、机、椅子、ロッカーは勿論、その後における学校施設の拡大、若しくは教育研究の充実に向上等のため取得した土地、建物、構築物、機械、器具、図書等の価額、或いは基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額等)

を控除して計算する。

消費支出は、当該会計年度において消費する資産の取得価額及び当該会計年度における用役の対価に基づいて計算するもので、当該会計年度の諸活動に対応する支出で、しかもその消費の原因となる事実の発生時点が、当該会計年度中であるものについてのみ、そのすべてを当該会計年度の消費支出として把握するもので、例えば当該会計年度において取得した消耗品等のように単年度内に消費するものの取得価額が該当するのは当然であるし、そのほかに固定資産のうち時の経過により、その価値を減少するもの(減価償却資産)についても規定により減価償却を行った場合の当該会計年度に割り当てられた償却額もこれに該当することとなる。更に用役の対価の中には人件費、旅費、交通費の類も含まれる。

ひきついでに別表に基づき昭和56年度消費収支の概要を説明します。

## (消費収入)

1. 学生納付金は54年度の改定による学年進行と56年度の入学金改定により昨年度比1億5934万円の増。
2. 補助金については、教職員の一部振替措置等により昨年度予算より6000万円の増を見込みました。なお55

## 消費収支予算書総括表

昭和56年4月1日から  
昭和57年3月31日まで (単位円)

### 〔収入の部〕

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	969,700,000	810,360,000	159,340,000
手数料	54,150,000	53,080,000	1,070,000
寄付金	0	0	0
補助金	380,000,000	320,000,000	60,000,000
資産運用収入	88,000,000	50,000,000	38,000,000
事業収入	18,550,000	15,970,000	2,580,000
雑収入	3,000,000	3,000,000	0
帰属収入合計	1,513,400,000	1,252,410,000	260,990,000
基本金組入額合計	△146,020,000	△284,080,000	138,060,000
収入の部合計	1,367,380,000	968,330,000	399,050,000

### 〔支出の部〕

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
人件費	722,430,000	684,510,000	37,920,000
教育研究費	374,370,000	257,180,000	117,190,000
管理経費	119,940,000	83,720,000	36,220,000
借入金等利息	28,000,000	27,760,000	240,000
予備費	10,000,000	10,000,000	0
支出の部合計	1,254,740,000	1,063,170,000	191,570,000
当年度消費収入超過額	112,640,000	△94,840,000	
前年度繰越消費支出超過額	169,940,000	219,230,000	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費支出超過額	57,300,000	314,070,000	

年度X線蛍光分析装置1600万円の国庫補助金がありましたので、本年度も同額を計上しております。

3. 資産運用収入は銀行等定期預金等の当期における切替利息を計上しました。

4. 基本金組入額は教育研究用機器、図書、借入金返済、危険薬品庫新営分等を内容としています。

以上の結果56年度に属する収入は昨年比2億6099万円の増の15億1340万円となります。

5. 従って前述の当該年度帰属収入額から基本金組入額を控除しますと56年度の収入として消費できる財源は13億6738万円となり前年度比3億3905万円の増となります。

(消費支出)

1. 人件費については、55年度実績見込みのベースアップ、定期昇給等を計上、3792万円増。

2. 教育研究費については必要と認められる要望事項を possible の限り充し得るよう編成しましたが、56年度における国庫補助金収入の伸びは余り期待できず、昨年度より56年度にわたる光熱水費、通信運搬費等公共料金の値上げに連動する諸物価の上昇を考慮しながら、一方において多年の懸案となっております大学会館建設

のための準備として、実習室(A1, 旧衛生等)の改造経費等1億0779万円の増。

3. 管理経費については、前述のとおり諸物価上昇の時期ではありますが、極力必要経費の節約を図りました。また、学内、学外の諸会議、各種委員会等開催のため現在唯一の会議室をもっては日常の運営にも支障をきたしておりますので、関係委員会、拡大教授会等に諮った結果、学生諸君に直接関係する教務課、学生課(就職指導等を含む)の各事務室を現会議室に移転することとし、その移転後の事務室の一部を就職資料室として整備することにしました。また学生厚生関係費も計上しております。以上のとおり直接或は間接に教育、運営のための経費として4000万円の増を見込んでおります。施設関係として危険物薬品庫の新営を計上しました。

以上の結果56年度の支出は昨年度比1億9157万円の増の、12億5474万円となり、当該年度の収支の状況は、1億1264万円の収入超過となっております。

然しながら昨年度までの支出超過額累計は、1億6994万円ありますので差引56年度末の支出超過額は、なお5730万円という結果となります。

## 新任の挨拶

講師 宮川 清 司



このたび私は、永い伝統を誇り、多数の有為なる人材を薬学界に輩出してきた本学に、講師として職を奉ずることができ、誠に光栄に存じております。さて私は、昭和41年に京都大学英文科を卒業後、語学を生かし、広く世界を見聞したい

と思い、一般企業に就職いたしました。約9年間、海外旅行業務に携わっておりましたが、この間、実用面の語学に習熟するにつれて、語学を更に深く、学問的に研究してみようと思うに至り、職を辞したのであります。以後、大阪教育大大学院に2年間、大阪大学大学院に3年間在籍して、英語・英文学の研究に専念して参りました。従いまして、本学への奉職は、私にとりましては、文字通り、人生の再出発であります。

「はじめに言葉ありき」とは聖書の有名な句ですが、ここに言う「言葉」とは“Logos”であって、「理性、法則、言語」などの意味を持ち、世界の根底に横たわる「理性的法則」と解されます。またある詩人は、「外国語を知らぬ者は、実は、本国語を知らぬに等しい」と喝破いたしました。更に、最近ある英文学者は、全く言語系統の異なる外国語の学習は、創造的思考力養成に有効である、との意見を述べております。正に、外国語を通じて、言語の本質に迫る学習とは、人間の教養獲得の最も基本的な営みのひとつである、と言えましょう。他方、現代の国際社会に於ては、必要の場合に、必要な文献を正しく読み、必要とあらば自己の判断を外国語で書き、必要に応じて外国語で意見を述べることのできる実用的語学力は、如何なる専門分野の人間にも望まれる技能である、と私は思います。

もとより私自身、学識・経験共に浅く、非才の身ではありますが、以上の観点から、熱意をもって本学の語学教育に精励し、本学の興隆発展にいきさかでも貢献いたしたく存する次第です。今は着任早々ですから、語学教育に対する私の認識の一端と心構えだけを申し述べて、今後皆さまのご教示、ご協力をお願いしつつ、新任の挨拶とさせていただきます。

# 学長選考規程きまる

ここ数年、大学として成案づくりに苦慮して来ました学長選考規程が、この度、拡大教授会、理事会の議を経て、2月末に成立し、3月にこの規程に従いまして、学長選考が行われました。ここにその学長選考規程を掲げて、全学生諸君にお知らせするとともに、約束を果たしたいと思います。(学長)

(趣旨)

第1条 大阪薬科大学学長の選考及び任期に関しては、この規程の定めるところによる。

(選考の時期)

第2条 学長の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。

- (1) 学長の任期が満了するとき
- (2) 学長が辞任を申し出て、理事会がこれを受理したとき
- (3) 学長が欠員となったとき

2 前項の学長の選考は、同項第1号に該当する場合においては、任期満了の90日前に、同項第2号又は第3号に該当する場合においては辞任の申出を受理したとき又は欠員となったとき、速やかに開始するものとする。

(学長事務取扱)

第3条 前条第1項第2号又は第3号に該当する場合においては、学長が新たに任命されるまでの間、理事長は、専任講師以上の教員をもって構成する拡大教授会(以下「拡大教授会」という。)が教授のうちから選挙した者を学長事務取扱に任命することができる。

(学長候補者の選考規程)

第4条 学長候補者は、人格が高潔で、学識がすぐれ、かつ、教育行政に関し識見を有する大学教授又はこれに準ずるものの中から選考する。

(選考管理委員会の設置)

第5条 この規程による学長の選考に関する事務処理を円滑にすすめるために、選考管理委員会を置く。

2 この規程に定めるもののほか、選考管理委員会の構成及び職務に関し必要な事項については、別にこれを定める。

(学長候補者の推薦)

第6条 理事及び評議員並びに教授、助教授、専任講師及び助手は、学長候補者を選考管理委員会に推薦することができる。

2 前項の推薦は、被推薦者の経歴、推薦理由及び推薦者の氏名を記載した文書をもって行わなければならない。

3 第1項の推薦を選考管理委員会が受理したときは、

当該被推薦者は、第1次学長候補者となる。

(第1次選考)

第7条 理事長は、学長候補者の第1次選考を行うため、選考委員会を置く。

2 選考委員会は理事及び教授、並びに、助教授、専任講師及び助手の互選による者5人、をもって組織し、理事長が招集する。

3 選考委員会は、前条第3項の第1次学長候補者について、単記無記名の投票を行い、得票数の上位3人の者を第2次学長候補者とする。ただし、得票数3位の者が複数ある場合は、そのすべてを含むものとする。

4 選考委員会は、前条第3項の第1次学長候補者が3人以下の場合には、前項の規定にかかわらず、各候補者について、単記無記名の除斥投票を行い、除斥票が有権者総数の3分の2以上となった者を除いて、第2次学長候補者とする。

5 前項の除斥投票により第1次学長候補者の全員が除斥されたときは、第6条及び本条の規定に基づいて、改めて選考を行う。

(第2次選考)

第8条 前条の規定により選出された第2次学長候補者について、教授、助教授及び専任講師は、次の各号に定めるところにより、最終学長候補者を選考する。

(1) 第2次学長候補者が3人以上の場合には、単記無記名投票を行い、投票者数の過半数を得た者を最終学長候補者とする。

(2) 前号の投票の結果、投票者数の過半数を得た者がいないときは、得票数の上位2人について再投票を行い、投票者数の過半数を得た者を最終学長候補者とする。

(3) 前号の再投票の結果、投票者数の過半数を得た者がいないときは、多数票を得た者について信任投票を行い、投票者数の過半数を得た場合に、その者を最終学長候補者とする。

(4) 前2号の場合において、得票数の上位2人又は多数票を得た者を決定し難いときは、第7条第3項の得票数の序列により、又は同条第4項の除斥投票の序列によって、これを決定する。

(5) 第2次学長候補者が2人の場合においては、前3

号の規定を準用する。

(6) 第2次学長候補者が1人の場合には、信任投票を行い、投票者数の過半数の信任票を得たときに、その者を最終学長候補者とする。

2 前項による選考の結果、最終学長候補者が得られなかったときは、第6条から本条までの規定に基づいて、改めて選考を行う。

(学長の任命)

第9条 理事長は、前条の最終学長候補者について、理事会の議決を経て、学長に任命する。

(学長の任期)

第10条 学長の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、再任の場合についてはその任期は2年とし、引き続き6年を超えることができない。

(規程の改正)

第11条 この規程の改正には、拡大授受会の同意及び理事会の議決を必要とする。

附 則

この規程は昭和56年1月21日から施行する。

## 事務部門の移転について

多年の懸案になっておりました旧分析実習室の改造計画及び本館内部における各室の移転が最近決定しましたので、その概要を説明します。(下図参照)

旧分析実習室の南側から小会議室(約58㎡)、隣接に大会議室(約116㎡)、廊下を狭んで理事室(約38㎡)、その北端に学長室(約57㎡)、更に給湯室来客控室に廊下を活用することとしました。また、従来より学生諸君に不便をかけておりました本館北側の学生課、教務課、厚生課の分断された各事務室を現会議室に統合し、組織も教務課と学生課(旧厚生課業務を含む)の事務室に転用し、更に旧厚生課事務室を就職関係資料室に転用する

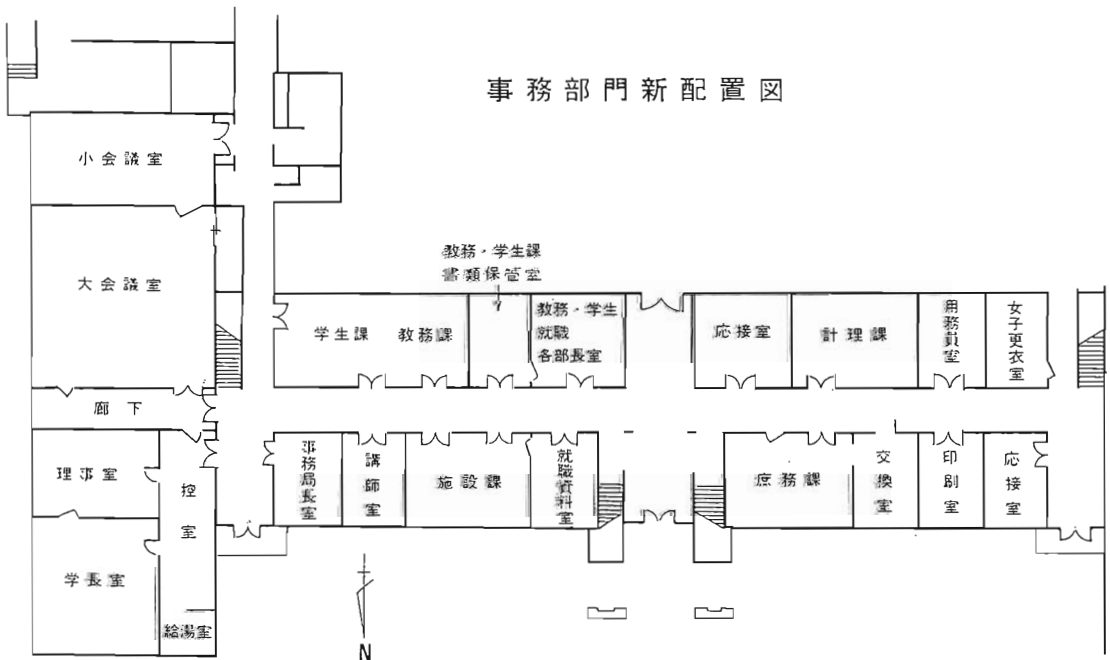
ことにしました。

旧学長室については、教務部長、学生部長、就職部長室とし、旧事務局長室は教務学生関係重要資料の保管と場合によっては学生個人面談の室に充當いたします。

施設課事務室は、学生・教職員に対する施設、設備等サービスの便宜等から旧教務課事務室に移動し、旧非常勤講師室は来客等応待のための室に、講師室は旧学生課事務室に移動、事務局長室は、諸般の都合もあり旧施設課事務室に移すこととしました。

以上、旧分析実習室及び本館内における模様替並びに移転は、本学の日常運営面のこともあります、学生諸君に対する可能な限りのサービス向上を図りたいための計画実施でありますので、理解の程願います。

事務部門新配置図



前期行事予定

- 4月13日(月) 入学式
- 4月14日(火) 新生ガイダンス 午後アドバイザー面談
- 4月15日(水) 1~4回生前期授業開始  
午後2~4回生ガイダンス
- 4月21日(火) レントゲン検診
- 4月25日(土) 午後新生歓迎会(学友会)
- 4月27日(月) レントゲン検診
- 5月2日(土) 5月9日(土)の本学創立記念日振替休日
- 5月8日(金) 健康診断
- 5月12日(火) 健康診断
- 5月18日(月) } 2~4回生単位獲得試験
- 5月30日(土)
- 7月11日(土) } 夏季休業
- 9月10日(木)
- 9月11日(金) 夏休後授業開始(9/11午後補講)
- 9月14日(月) 1~4回生前期授業終了
- 9月16日(水) } 1~4回生前期試験
- 9月30日(水)

学位(修士)授与 (56.3.20)

- 中村 憲史「マウス腎レニンに関する研究」
- 清水 利勝「レニン顆粒分画における脂質過酸化形成とレニン遊離について」
- 中島 真弓「ラットの尿中カリクレインに関する研究」
- 谷 力「3,6,7-Trisubstituted Pyrazolo [1,5-a] pyrimidine 類の反応性に関する研究, 特に環変換反応について」
- 石田 真弓「血液ろ過液中の Ninhydrin 陽性中分子量物質と Uremic Dermatosi s について」
- 藤本 陽子「腎皮質切片におけるパラアミノ馬尿酸の取り込みに対する脂質過酸化の影響」



合格発表

大学ごよみ

- 1月8日 冬季休業後授業開始
- 1月17日 後期授業終了
- 1月19日 } 後期試験
- 1月30日
- 1月30日 大学院修士論文発表会
- 2月11日 入学試験(志願者数 2604名)
- 2月13日 } 後期追試験
- 2月19日
- 2月19日 入学試験合格者発表
- 2月21日 } 4回生後期再試験
- 2月26日
- 2月21日 } 1~3回生後期再試験
- 3月4日
- 2月28日 } 4回生特別実習発表会
- 3月20日 } 第28回卒業式ならびに第5回大学院修了式(学部卒業生 298名, 大学院修了生 6名)



卒業式



# 人 ◆ 事 ◆ 異 ◆ 動

学長発令 (56・3・28)

堀田 輝明 (学長事務取扱)

教務部長発令 (56・4・1)

森 逸男 (教授)

教授発令 (56・4・1)

沼田 敦 (有機薬化学)

小澤 貢 (生薬学)

藤田 直 (衛生化学)

森下 利明 (倫理学)

助教授発令 (56・4・1)

土井 勝 (物理学)

講師発令 (56・4・1)

宮川 清司 (英語 新採用)

助手発令 (56・4・1)

尾崎 和子 (薬品化学)

久保真百合 (微生物学)

佐々木将博 (放射薬品学)

田中 和美 (生薬学)

田之口真理子 (有機薬化学)

那須 啓子 (薬品製造学)

松山 容子 (生薬学)

石田 真弓 (生物化学 新採用)

加藤いづみ (無機薬化学 新採用)

中島 真弓 (衛生化学 新採用)

松浦多美子 (薬剤学 新採用)

藤本 陽子 (衛生化学 新採用)

副手発令 (56・4・1)

赤坂実与子 (無機薬化学 新採用)

神谷 悦子 (薬剤学 新採用)

島田 詩子 (放射薬品学 新採用)

難波江倫子 (NMR 新採用)

藤原 葉子 (薬剤学 新採用)

山下まゆみ (薬品製造学 新採用)

課長発令 (56・4・2)

村上 昭 (施設課長 新採用)

主任発令 (56・4・1)

山本アサノ (教務課)

中下香代子 (計理課)

森 かめ代 (庶務課)

事務職員発令 (56・1・7)

梅村 愛弓 (教務課 新採用)

配置換発令 (56・4・1)

西野 隆雄 助手 薬剤学

(生薬学より)

山本 栄子 助手 生物化学

(NMRより)

柴田 恵 助手 薬品物理化学

(放射薬品学より)

福本 雅代 副手 生薬学

(秦教室より)

豊田 忠法 図書課長

(厚生課長より)

杉田 勝美 学生課長

(図書課長より)

井頭 八郎 学生課

(教務課より)

篠本 淑子 学生課

(厚生課より)

福島 笑子 学生課

(厚生課より)

嘱託発令 (56・4・1)

加藤 勇 庶務課労務管理室長

梅田 ハル 用務員

退任 (56・3・31)

井上正敏教授 教務部長

(任期満了につき)

退職 (56・2・28)

山崎みどり 副手 (薬剤学)

同 (56・3・31)

大西美智子 助手 (無機薬化学)

小川 孝子 助手 (薬品製造学)

玉土 幸子 助手 (衛生化学)

平野 英子 助手 (薬剤学)

糠加佳代子 助手 (無機薬化学)

中谷真理子 副手 (薬剤学)

宮本 洋子 副手 (薬品物理化学)

樫 英子 副手 (生物化学)

三宅 典子 副手 (放射薬品学)

加藤 勇 施設課長

梅田 ハル 用務員

解囑 (56・3・31)

梁瀬 武明 学生課長

谷本 米 用務員

# 教員研究業績一覽 (1980)

## I 学術論文

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
太田長世, 井上正敏, 三野芳紀	生薬の物理化学的研究 (第4報) 漢薬・滑石の成分について	生薬学雑誌 34, 13-18 (1980)
太田長世, 三野芳紀	薬用植物中のイヌリンに関する研究 (第2報) 高速ゲルクロマトグラフィーによる薬用植物中のイヌリンの定量 —イヌリン含量の季節変化—	生薬学雑誌 34, 245-249 (1980)
三野芳紀, 太田長世, 坂尾聰, 他	Determination of Germanium in Medicinal Plants by Atomic Absorption Spectrometry with Electrothermal Atomization	Chem. Pharm. Bull. 28, 2687-2691 (1980)
森本一洋, 中元安雄, 武枝敏之, 平野英子, 森坂勝昭, 他	Pharmaceutical Studies of Polyacrylic Acid Aqueous Gel Bases: Absorption of Insulin from Polyacrylic Acid Aqueous Gel Bases Following Rectal Administration in Alloxan Diabetic Rats and Rabbits	J. Pharm. Dyn. 3, 24-32 (1980)
森本一洋, 木村捷二郎, 稲森善彦, 森坂勝昭	Stability of Enzyme Preparations on Radiosterilization	Chem. Pharm. Bull. 28, 1304-1306 (1980)
井上正敏, 三野芳紀, 石田寿昌, 他	Physicochemical Studies on Calcium Glycerophosphate. I. X-Ray Diffraction Study of Calcium Glycerophosphate Crystals and Their Water of Crystallization	Chem. Pharm. Bull. 28, 1491-1496 (1980)
井上正敏, 柴田 恵, 石田寿昌	X-Ray Crystal Structure of 7,8 Dimethylisoalloxazine-10-acetic Acid: Tyramine (1:1) Tetrahydrate Complex. A Model for Flavin Coenzyme-Tyrosine Residue Charge-transfer Complexes in Flavoproteins	Biochem. Biophys. Res. Commun. 93, 415-419 (1980)
水谷泰久, 他	ゴム製器具からのジメチルアミンの溶出について	食衛誌 21, 32-36 (1980)
森 逸男, 藤田芳一, 他	3,4,5,6-テトラクロロフルオレsein水銀化合物を用いる硫化物イオン及び8-ヒドロキシキノリンのけい光光度定量	分析化学 29, 145-148 (1980)
森 逸男, 藤田芳一, 西東紀美子, 他	ガレインと過酸化水素を用いるモリブデン(VI)の吸光光度定量	分析化学 29, 413-416 (1980)
森 逸男, 藤田芳一, 他	ピロガロールレッド, 塩化セチルピリジニウムを用いるモリブデン(VI), タングステン(VI)の吸光光度改良法	分析化学 29, 638-640 (1980)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子, 他	塩化セチルピリジニウム, オキシニ誘導体共存下にメチルチモールブルーを用いる亜鉛(II), カドミウム(II)の吸光光度定量	分析化学 29, 723-726 (1980)
沼田 敦, 山口秀夫, 他	C-Glycosylflavones in <i>Lespedeza cuneata</i>	Chem. Pharm. Bull. 28, 964-965 (1980)
小澤 貢, 馬場きみ江, 松山容子, 秦 清之	Studies on Coumarins from the Root of <i>Angerica pubescens</i> MAXIM. III. Structures of Various Coumarins including Angelin, a New Prenylcoumarin	Chem. Pharm. Bull. 28, 1782-1787 (1980)
安田正秀, 藤田 直, 他	Effects of 4-Pentenoic Acid and Furosemide on Renal Functions and Renal Uptake of Individual Free Fatty Acids	Pflügers Arch. , 385, 111-116 (1980)
栗原拓史, 他	Reaction of Ethyl 3-Ethoxymethylene-2,4-dioxo- <i>valerate</i> with Monosubstituted Hydrazines	J. Heterocyclic Chem. 17, 231-233 (1980)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 那須啓子, 他	Reactions of Ethyl 3-Ethoxymethylene-2, 4-dioxo-valerate and Ethyl Ethoxymethyleneoxaloacetate with Indole Analogs	Chem. Pharm. Bull. 28, 2972-2979 (1980)
栗原拓史, 那須啓子, 他	Ring Transformation of 6H-Cyclopropra [5a, 6a] -pyrazolo [1, 5-a] pyrimidine	Heterocycles 15, 265-269 (1980)
栗原拓史, 他	Reaction of 2-Aminobenzamide Analogs and 2-Aminothiophenol with Ethyl 3-Ethoxymethylene-2, 4-dioxo-valerate. Synthesis of Pyrrolo [1, 2-a] quina-zoline and Pyrrolo [1, 2-a] benzothiazoline Derivatives	J. Heterocyclic Chem. 17, 945-951 (1980)
松島与和, 玄蕃宗一	Divalent Cation Transport in Kidney Slices II. Mag-nesium Transport in Kidney Cortex Slices and Effects of Diuretics	Japan J. Pharmacol. 30, 137-143 (1980)
玄蕃宗一, 松島与和, 他	Divalent Cation Transport in Kidney Slices III. Inhibitory Action of Verapamil on Magnesium Gain	Japan J. Pharmacol. 30, 389-391 (1980)
玄蕃宗一, 他	Inhibitory Action of Calcium Antagonists on ATP-dependent Calcium Uptake by the Renal Cortical Microsomes	Japan J. Pharmacol. 30, 913-917 (1980)
玄蕃宗一, 他	Effects of Diuretics on Calcium Uptake and Release in Renal Microsomes	Biochem. Pharmacol. 29, 2339-2343 (1980)
玄蕃宗一, 松島与和, 他	Effects of Polyvalent Cations on Electrolyte Trans- port and Inulin Space of Rat Kidney Cortical Slices	Japan J. Nephrol. 22, 1371-1379 (1980)
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保 真百合, 森本一洋, 森坂勝 昭, 他	Physiological Activity of Streptothricin Antibiotics	Chem. Pharm. Bull. 28, 2884-2891 (1980)
木村捷二郎, 他	化学共沈法による高塩分放射性廃液の処理( I ) —硫酸バリウム共沈法による放射性ストロンチウムの 分離除去—	保健物理 15, 33-39 (1980)
木村捷二郎, 他	アルカリ金属を含む難溶性フェロシアン化ニッケル錯 塩による $^{60}\text{Co}$ と $^{137}\text{Cs}$ の共沈分離	保健物理 15, 55-59 (1980)
石田寿昌, 宮本洋子, 井上 正敏, 他	X-Ray Structural and Conformational Studies of [5'-(Tryptaminocarbonyl)-2'-deoxyribofuranosyl] thymine, a Model Compound for the Study of the Interaction between Indole and Thymine Rings	Biochim. Biophys. Acta 609, 158-172 (1980)
石田寿昌, 他	The Structure of the 1-Thyminylacetic Acid and Tyra- mine (1 : 1) Complex	Acta Cryst. B 36, 2095-2099 (1980)
石田寿昌, 井上正敏, 栗原 拓史, 他	X-Ray Crystal Structure of 5'-Deoxy-5'-adenosine- acetic Acid ; a Model Nucleotide of Adenosine-5'- monophosphate	J. C. S. Chem. Commun. 1074-1075 (1980)
石田寿昌, 井上正敏, 他	An X-ray Study on the Interaction between Indole Ring and Pyridine Coenzymes : Crystal Structure of 1-Methyl-3-carbamoylpyridinium : Indole-3-acetic Acid (1 : 1) Monohydrate Charge-transfer Complex	Arch. Biochem. Biophys. 200, 492-502 (1980)
森本一洋, 他	$^3\text{H}$ -デキストランによる脈絡膜循環血液量の測定	日本眼科学会雑誌 84, 987-989 (1980)
森本一洋, 他	ウサギ角膜における結膜由来再生上皮の電气的特性	日本眼科紀要 31, 1025-1026 (1980)
森本一洋, 他	$^3\text{H}$ -Dextran Method for Measurements of the Blood Volume in the Rat Choroid	Jpn. J. Ophthalmol. 24, 439-443 (1980)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
吉田嶺吉	On I-bisimple inverse semigroups	Proc. 3rd Symposium on Sgrs.
碓井信二	ある政治的枠組の破壊	ばいでいあ 4, 113-129 (1980)
森下利明	素行学における「善」の問題	倫理学研究 10, 121-131 (1980)
加藤義春	ファシズムの機能	ばいでいあ 4, 87-112 (1980)
望月伸三郎, 新宅幸憲	体育指導の基礎研究(II) 体力の観点から	ばいでいあ 4, 131-140 (1980)
新宅幸憲, 他	水泳時の呼吸循環機能と主観的強度感覚 (R P E)	大阪体育学研究 18, 19-28 (1980)

## II 学 会 発 表

発 表 者	題 目	発 表 機 関
山口秀夫, 有本正生, 田之口真理子, 沼田 敦	ハスノハギリの種子成分研究 (補遺 2)	日本薬学会第100年会
森本一洋, 平野英子, 中元安雄, 武枝敏之, 森坂勝昭	ポリアクリル酸系水性ゲル基剤の生物薬剤学的研究 (その5) フェニル酢酸系抗炎症剤への応用	〃
酒井 清, 中谷真理子, 山崎みどり, 松岡信子	Alloxan 糖尿病家兎における経口糖尿病薬の Pepsin 活性値に及ぼす影響	〃
松永春洋, 森田麗子, 他	オオニキソウ成分の研究 (第3報) — Cycloartane 系新 Triterpenoid の構造	〃
松村靖夫, 森本史郎, 他	各種臓器における過酸化脂質形成におよぼす Fe <sup>2+</sup> , アスコルビン酸の影響	〃
福原厚子, 松村靖夫, 森本史郎, 他	Metolazone, furosemide の尿中 kallikrein, 血漿 renin 活性および腎レニン量におよぼす影響	〃
平野 弘, 杉山和明, 小川孝子	2-Acylbenzothiazine 誘導体と亜硝酸の反応による S-oxide の生成とその 2, 3 の化学的性質について	〃
森 逸男, 藤田芳一, 西東紀美子, 榎 健寿	ガレイン誘導体を用いるトリウム(IV), クエン酸の定量について	〃
森 逸男, 藤田芳一, 西東紀美子, 榎 健寿	オキシシン誘導体と塩化セチルピリジニウム共存下にメチルチモールブルーを用いる亜鉛(II)の吸光度定量	〃
小澤 貢, 馬場きみ江, 松山容子, 秦 清之	シシウド根クマリン成分の研究 (第4報) angelol 型 prenylcoumarin 類について	〃
栗原拓史, 他	Pyrimido [1, 2-a] indole および Pyrimido [1, 2-a] benzimidazole の合成と反応	〃
加藤喜昭, 稲森善彦, 他	Aspergillus terreus に属する一真菌の菌学的性状およびその代謝産物について	〃
稲森善彦, 加藤喜昭, 久保真百合, 森本一洋, 森坂勝昭, 他	Streptothricin 抗生物質の生理活性	〃
中元安雄, 武枝敏之, 平野英子, 森本一洋, 森坂勝昭	ポリアクリル酸系水性ゲル基剤の生物薬剤学的研究 (その4) 1-2-テトラヒドロフリル-5-フルオルウラシル (FT-207) の直腸投与について	〃

発 表 者	題 目	発 表 機 関
木村捷二郎, 覚前俊彦, 佐々木将博, 他	牛黄を含む生薬製剤の殺菌への放射線照射の適用 —製剤中含水率とビリルビンおよび胆汁酸の放射線分解—	〃
石田寿昌, 宮本洋子, 井上正敏, 他	N-2'-(9-エチルアデニル)-3-カルバモイルピリジニウムクロライドの結晶構造 ニコチンアミド-アデニン相互作用モデル	〃
山口秀夫, 有本正生, 田之口真理子, 沼田 敦 太田長世, 三野芳紀	ハスノハギリの種子成分研究 (補遺3)  薬用植物中のイヌリンに関する研究 (第3報) 高速ゲルクロマトグラフィによる薬用植物中のイヌリンの定量—分子量分布	第30回日本薬学会近畿支部総会ならびに支部大会 〃
太田長世, 三野芳紀, 田中和美	漢薬苦参の生薬学的研究 (第2報) 中国産・韓国産・本邦産苦参について	〃
森本一洋, 平野英子, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭 国重千昌, 松村咲子, 川野タツ	ポリアクリル酸系水性ゲル基剤の生物薬剤学的研究 (その6) インシュリンの直腸投与への応用  Leuconostoc mesenteroides におけるアミノ酸の利用に及ぼすビタミン B <sub>6</sub> の影響	〃 〃
酒井 清, 山崎みどり, 中谷真理子 井上正敏, 宮本洋子, 石田寿昌, 他	Alloxan 糖尿病家兔における経口糖尿病薬の胃液分泌に及ぼす benactyzine methobromide の影響  エネルギー計算による1-[3-(アデニン-9-イル)プロピル]-3-カルバモイルピリジニウムのコンホメーション解析 ニコチンアミド-アデニン相互作用モデル	〃 〃
井上正敏, 石田寿昌, 他 松永春洋, 森田麗子, 坂尾聡, 他 松永春洋, 森田麗子, 赤木昌夫, 他	ビスアクナジニンのビフェニル結合に関する立体配置  コバンノキの樹皮成分について (第一報)  ニシキソウ成分の研究 (第一報)	〃 〃 〃
樺 英子, 高雄 弘, 小延鑑一, 他 松村靖夫, 森本史郎, 他	血液濾過液中の ninhydrin-positive middle sized molecules について  低塩食飼育ラットにおける腎レニン顆粒中のレニンについて	〃 〃
水谷泰久, 石城千鶴, 玉土幸子, 他 水谷泰久, 石城千鶴, 玉土幸子	ジアセチルとそのオキシム類のポーラログラフィー  ピリダジンのポーラログラフィー	〃 〃
田中千秋, 那須啓子, 三宅典子, 柴田 恵 森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子, 山崎みどり, 榎健寿 栗原拓史, 那須啓子, 他	2-Amino-2-oxazoline 類のトリフロロアセチル化について  オルトヒドロキシヒドロキノンフタレインと陽イオン性界面活性剤を用いるハフニウム, ジルコニウムの定量  6H-シクロプロパ [5a, 6a] ピラゾロ [1, 5-a] ピリミジンの反応性 (その1) 求核試薬などとの反応について	〃 〃 〃
栗原拓史, 那須啓子, 井上正敏, 石田寿昌, 他 赤木昌夫, 尾崎和子, 松永春洋	6H-シクロプロパ [5a, 6a] ピラゾロ [1, 5-a] ピリミジンの反応性 (その2) 環変換反応について  アニリノキノリン誘導体の閉環反応(II)	〃 〃
加藤喜昭, 久保真百合, 稲森善彦, 他 加藤喜昭, 久保真百合, 森本一洋, 森坂勝昭, 稲森善彦, 他	Streptothricin 抗生物質の抗菌活性に及ぼす化学因子について  Toxicological Approaches to Streptothricin Antibiotics IV. Toxicity of Streptothricin Antibiotics to Blood	〃 〃

発 表 者	題 目	発 表 機 関
木村捷二郎, 佐々木将博, 近藤裕一	環境放射能モニター用化学共沈剤としてのフェロシアン化ニッケルナトリウム	〃
石田寿昌, 井上正敏, 他	放射線防護作用物質, N-(チオアセチル)トリプタミンの結晶構造	〃
秦 清之, 西野隆雄, 小澤 貢, 他	シシウド <i>Angelica pubescens</i> MAXIM. 果実のクマリン成分	〃
森本史郎, 松村靖夫, 福原 厚子, 他	マウス腎レニン顆粒中のレニンについて	日本薬理学会
松島与和, 玄番宗一	腎切片におけるパラアミノ馬尿酸輸送に対する $Ca^{2+}$ の影響	〃
森本史郎, 松村靖夫, 他	レニン顆粒からのレニン遊離におよぼすアスコルビン酸, 塩化第一鉄の影響	日本薬理学会近畿支部会
松村靖夫, 高岡昌徳, 森本 史郎, 他	ラット尿中カリクレインの分離とその性質について	〃
松島与和, 玄番宗一, 他	腎皮質切片における p-Aminohippuric acid 輸送に対する Bumetanide の影響	〃
玄番宗一, 他	腎皮質ミクロゾームのカルシウム取込みに対するカルシウム拮抗薬の阻害作用	〃
三野芳紀, 坂尾 聡, 太田 長世	フレイムレス原子吸光法による薬用植物中のゲルマニウムの定量	日本生薬学会 (27年会)
小澤 貢, 馬場きみ江, 松 山容子, 秦 清之	市場品唐独活のクマリン成分による比較および各クマリン成分について	〃
小澤 貢, 馬場きみ江, 松 山容子, 秦 清之, 他	シャクの根の成分 (第2報) 昆虫に対する生理活性について	〃
井上正敏, 柴田 恵, 石田 寿昌	7, 8-ジメチルイソアロキサテン-10-酢酸: チラミン (1:1) 複合体の結晶構造	日本化学会
木村捷二郎, 覚前俊彦, 佐 々木将博, 他	高塩分放射性廃液の処理に関する基礎的研究 (IV) 一水熱反応によって生成するスピネル型フェライトと放射性元素の共沈一	日本原子力学会
木村捷二郎, 他	水酸化第二鉄粒子の水中密度と沈降速度	日本保健物理学会
松島与和, 玄番宗一, 他	腎ミクロゾームのカルシウム取込みに対する利尿薬およびカルシウム拮抗薬の影響	日本腎臓学会
加藤喜昭, 久保真百合, 森 本一洋, 森坂勝昭, 稲森善 彦, 他	Streptothricin 抗生物質の生理活性とその構造-活性相関について	微生物をめぐる分子生物学とその薬学領域における応用面シンポジウム
藤田 直	ビタミン E と脂質過酸化について	ビタミン E に関するシンポジウム
井上正敏, 石田寿昌	フラボ蛋白質とフラビン補酵素との結合におけるチロシンおよびトリプトファン残基の役割について. 構造化学的モデル研究	生体分子の構造に関する討論会
佐々木将博, 木村捷二郎, 他	Naイオンを含むフェロシアン化ニッケル錯塩の生成と $^{137}Cs$ および $^{60}Co$ の共沈特性	理工学における同位元素研究発表会
吉田敬吉	Mid-free completely O-simple semigroups	第4回半群論とその周辺シンポジウム
土井 勝, 他	Majorana ニュートリノについて	日本物理学会